

令和4年度 第1回長門市介護人材確保協議会 議事録

- 1 日 時 令和4年6月24日（金曜日） 13時30分～15時30分
- 2 場 所 長門市役所 4階会議室2
- 3 出席者 別添委員名簿のとおり
- 4 議 事
 - (1) 開会 高齢福祉課長あいさつ
 - (2) 自己紹介
 - (3) 会長・副会長選任
立候補、推薦がないため事務局案を諮り承認を得る。
会長：和田委員 副課長：末永委員
 - (4) 協議
 - 医療・福祉系人材確保事業について
「奨学金返還補助制度」について企画政策課担当者から説明を行った。
 - 介護人材の現状と課題
「介護人材確保対策に係る調査結果報告書」をもとに現状を報告した。
 - 介護人材の確保対策

【介護人材の現状と課題について】

- (委員) ヘルパーについては、高齢化と担い手不足が顕著である。自分の事業所でも職員が高齢化しており、70歳以上のヘルパーが多い。以前、自分が施設で働いていたときには、若いヘルパーを見かけると珍しいと思っていた。両方を経験してみて、ヘルパーは若いうちから働くのは厳しいと思う。学生のようにヘルパーステーションに斡旋されることもなかった。そのため、施設の仕事の方に行きがち。
- (事務局) どのような点で、若い人がヘルパーをするのが難しいのか。
- (委員) 利用者が急変したとき、施設であれば誰かがいるし、上司にも相談できるので一人ではない。ヘルパーは緊急時に誰かがすぐに来てはくれないので、例えばどの状態であれば救急車を呼んでよいのかなど、1人で判断しなければならない。そこがプレッシャーとなる。だから、介護の経験がない人が施設とヘルパーのどちらを選ぶかって言ったら絶対施設になる。
- (委員) ヘルパーは高齢化している。辞めたくても辞められない人が多い。利用者から要望があってもヘルパーが足りなくて、ケアマネジャーがいくらこの時間にこれだけ入ってくださいという希望をしたとしても実際それに対応できる人がいない、という現状がある。やっぱり個人の家に入っていく難しさはあ

る。調理をするにしても、主婦層である程度経験をしてきた方ならできるかもしれないが、20代の方とかが高齢者の口に合った食事を作れるかって言われたらすぐには難しいと思われる。

(委員) 高齢者も自分と歳が近いからわかってもらえるという安心感がある。掃除の仕方一つにしても、その家庭のきまりがあるので、それに合わせていかないといけない。それができる人でないとヘルパーは難しい。

(委員) ヘルパーの研修を受けてみようかという人はいるけど、なかなか若い人で実際ヘルパーになったり、継続していけるかという点で難しい。施設であればある程度決まった時間で働けるが、ヘルパーは利用者の時間に合わせないといけないので、それが自分のライフスタイルに合致していればやれるのかもしれないが、なかなかマッチングしない。

(委員) ヘルパーを依頼される時間帯がデイの送り迎えの時間など、子育て世代が一番忙しい時間であることが多い。ある程度子育てが終わった高齢の方とか時間に融通が利く人ほどヘルパーとして働きやすい傾向にある。

(委員) ケアマネジャーの試験については挑戦してみる方はいるが、資格を取ってその職に就きたいかという点では別問題。取ったけどケアマネジャーとしては働きたくないという人は多いのかなと思う。

(委員) 今、介護職員の処遇改善加算が出ているので、介護職員であれば給料が上がったり、逆にケアマネになると給料が下がったり、ということがあるので、わざわざケアマネにならないという流れになっている。特に今まで、施設の夜勤をしていた人がケアマネに回ると処遇改善と夜勤手当もなくなるので収入が5、6万ぐらい一気に下がる。それでもケアマネジャーになりたいですかというと、やらないですね。それは問題になっている。

(委員) ケアマネジャーは本人、家族や事業所と板挟みになり本当に大変だが、その割には給料が低い。資格を保ち続けるために研修も多いし、わざわざそれをしてまでもケアマネになりたいかという問題がある。

(委員) 介護は離職も激しい職場ではあるので資格を取る前に辞めてしまう人もいる。国の方からの補助金で介護職員の賃金は改善をされてきているが、まだまだ。

(委員) ハローワークにおいて、現在、求人倍率だけで見ると高いが、職種によってかなり偏りがある。介護関係の募集は多いが、介護職を希望される方はやはり少ない。求人数だけでみれば介護は多い。萩・長門の求人倍率は約1.35倍

であるのに対し、介護関係は約 2 倍。ハローワークを利用される方々についても、山口県全体に比べると萩・長門地域は 50 代以上の方が半分以上。介護関係の仕事を選ぶ若い方がなかなかいっしょらない。女性であれば事務系の希望がとて多い。介護の仕事をやめられた方は、次も介護っていう人が多いような気がする。夜勤が多いなどイメージが定着しているのかもしれない。

(委員) 今の子供たちは自分の町にどんな事業所があるのかほとんど知らない。それを知らせて長門の魅力を伝えていくことを今、重点的にやっている。事業所にはイメージがある。どういうことをしているかを伝えている。中高校生にパンフレットを作成している。また、実際に担当者から聞いてみないと伝わらないことがあるので、合同企業ガイダンス等に出তেいきて、発信しているという状況。対話して伝えていった方がわかりやすい。

(委員) 現在、施設では慰問やボランティアを停止している。以前であれば、小学校や中学校のころから慰問のような形で施設に来てくれて小さいころから福祉に関わってもらえていたが、コロナの関係で来ることがなくなった。地域との接点もなくなっていつている。職場体験にも来られなくなった。施設や職員を知ってもらう機会が減っている。

(事務局) 元気な高齢者の方が介護分野で活躍していただくことも今から大事になってきますがシルバー人材センターの様子を教えてください。

(委員) 今、シルバーに登録している方で介護の仕事をしている人はいる。ただ身体に触れてする仕事はしてない。派遣事業として施設の中に入って職員の手がまわらないときに掃除をしたり、そこで働いている方の手伝いをしたりしている。何かできることがあれば協力したいので個別に連絡してほしい。

(委員) 介護保険でできないことをシルバーでカバーしてもらうことは今から重要になってくると思う。

(委員) 国の法に従って行っているので、ひと月の最大従事時間が 80 時間以内という縛りがある。働いている人の負担が少しでも軽減できるように、そこにシルバーの働きたい、元気になりたいという気持ちや活力を生み出す。これがうまくいけばよいと思う。

【介護人材の確保対策について】

- (委員) 老施協が行った高校生の意識調査というものがあって、介護の仕事に魅力があると答えた人は男女ともに上位にあった。外国人人材も活用したいと取り組んでいる。また、就職斡旋業者と契約したが、面接など日程調整したのになしのつづて。やっぱり通勤がしにくい、生活に便利じゃないという理由があるのかと思う。県内の施設の方に聞いたら、外国人人材に将来ここで働いてもらいたいと言ったら、ここは日本じゃないと言って帰ったらしい。東京とか大阪じゃないと日本じゃないという。まず、人が出ていくのを防止することもだが、こちらの方に呼び寄せるような取り組みをしていったらいいと思う。長門市の人口は毎年 500 人くらい減っている。今後、立ち行かなくなっていくのではないかな。
- (事務局) 高齢者の人口自体はもうピークを過ぎているが、今後は若い人がそれ以上に減っていく。現在、高齢化率が 45%だが、もう 5 年すると 50%を超えてしまうと推測されている。どのように若い人を呼び寄せるか、ということを市でも取り組んでいる。
- (事務局) 移住定住対策に取り組んでおり、今、コロナ禍ということで東京圏からの問い合わせが多い。移住のホームページの閲覧が年間 30 万件ぐらいで相談件数も約 800 件ぐらいであった。それをしっかり掴んでいかなきゃいけないということで介護福祉人材だけではなくて、例えば若者向けの職業とか、高齢者とまで言わないが、50 代 60 代の方も含めて、しっかり機会を捉えて市の魅力を発信して取組んでいく。
- (委員) I C Tの活用状況については、県の補助金があったので、タブレットを使ったオンライン面会などを取り入れ、W i - F i 環境も整えた。事業所にカメラを取り付けることも考えている。現在、L I F Eに登録すれば加算が取れるので実施している。本当はそれに対応したソフトがあればいいが、値段が高くてなかなか買えない。各部署に端末を揃えるというのは難しいのでそこまでいっていない。それを使う人たちも高齢の方々に使えないので、それを教えるために手間等がかかるため進んでいない。自分の中ではそれがあることが理想。タブレットとパソコンがあればバイタルの測定とか記録とか 1 回取ればみんなに周知できるし簡単にできるので。そこは他の色々な施設をみてもできていない。なかなか I C Tの普及が難しいと思っている。補助金以上に色々な費用がかかる。施設の負担は多い。

- (委員) ロボットとか見守りセンサーとかについていけないという現状がある。使いこなすのは難しい。とても高いし、使い方を習得するための手間もいるので介護ロボットに対しても自分たちで動いた方が早いと思ってしまう。
- (委員) 補助金は導入経費にはあるが、維持経費にはない。維持経費が高いのでランニングにも補助がほしい。導入したはいいが、それを維持するために莫大な経費がかかるので、簡単に導入するのは危険である。
- (委員) ハローワークでは介護職に興味はあるけど躊躇している方には施設の見学を進めている。
- (委員) 施設で働く場合は介護の資格がないといけないということはないが、ヘルパーとなってくるとヘルパーなり介護福祉士なり何かしら資格を持っていないといけない。なので、ヘルパーをやってみたいなと思ってもすぐにはできない。
- (委員) 施設であつたら働いてみたいと思ったら結構すぐ働けたりする。
- (委員) 市内の高校では在学中にヘルパーの資格が取れていたりしていたが、今はそういうことも聞かない。市外では資格を取れる高校がある。
- (委員) デイサービスは利用者を迎える側。ヘルパーやケアマネは家に行く側だが、家に行くのは結構負担が大きい。
- (委員) 高校生でヘルパーの資格を取って、事業所が実際行かせられるかって言ったら難しい。教える側としても、色々な不安が出てくる。喋り方や言葉遣い一つ、お年寄りとは会話してどうか。高齢者のペースと若者のペースの違いなど。高齢者にはどのような言葉が伝わりやすく、伝わりにくいかなど経験が必要。おじいちゃんおばあちゃん慣れしている高校生が今、どれくらいいるのだろうと。
- (委員) 私たちは介護の仕事を選んだが、例えばここにいる行政の方々が何で今の仕事を選ばれて、何で介護を選ばなかったのか、その「何で」がわからないと問題が解消しない、介護の仕事を選んでももらえないという問題が解消されないのではないか。
- (事務局) 私は就職するときに介護を選ばなかったのではなく選択肢の中に介護がなかった。知らなかった。なので、中学生や高校生が職業を選択する前に介護の仕事を知ってもらうようなパンフレットを配布したり、講演をしたりするの

は一つの手であると思う。

(委員) 介護について結構テレビでも取り上げられる。逆に親が介護は大変というイメージを持っているという気がする。介護の仕事に就くって言ったときに、親が介護大変だからってという言葉にならないか、というのがある。他の仕事の方がいいんじゃないかって。長門市に介護の学校がないし。あるのとないのとでは大きな違いかなと。

(委員) 以前、「私が親だったら息子に絶対（介護の仕事を）やれって言わない。あんたようやるね。」って言われたことがある。やっぱりイメージって強い。逆に中学校の卒業式のときに「お母さんのような介護福祉士になりたい」と言われた娘さんがいて、感動した。

(事務局) 本日はありがとうございました。この協議を事務局の方でも今後の事業展開の参考にさせていただきたい。委員の皆様も今日出た意見を持ち帰って、職場に周知していただくとともに、良い情報などあれば随時お知らせいただければ有り難い。

(5) 閉会